

490 SPECT画像の3-D surface display

に関する基礎的ならびに臨床的検討

尾上公一，浜田一男，立花敬三，成田裕亮，石村順治
河中正裕，福地 稔（兵庫医大 核）

体内RI分布の空間的位置関係の正しい認識は、立体像においてより容易と思われる。そこでわれわれは、SPECT画像の三次元表示法による立体画像の有用性とそのプログラム入力パラメータの検討を行ったのでその成績を報告する。

検討にはGE社製3Dソフトウェアを使用し、適切な閾値、陰影係数を検討した。ファントム実験では、閾値により画像は大きく変化した。陰影係数は1から10の間で満足できる画像が得られた。臨床的検討では通常、閾値50%、陰影係数5での処理が標準であり、心筋イメージにおいて欠損部の拡がり、再分布の様子を立体的に認識できた。